

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 45 号	2005年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 4月3日（日）ビオトープ総会が開かれ無事終了しました。30名の出席でした。
- 4月16日（土）午前は作業で湿地の橋の補修と風倒木の片付け、午後は里山自然観察隊で春の野草観察とてんぷらをしました。午後は隊員22名、保護者17名、会員17名が参加しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

- 5月28日（土）樹木・環境ネットワーク協会、潮村・美濃和・西原会員で対応。
- 5月28日（土）ファミリーサポート見学約60名 4名の会員で対応。

◎ 行事

- 5月1日（第一日曜日）の活動 作業（水路の整備、草刈り、駐車場の草刈り）
- 5月21日（第三土曜日）の活動 午前：作業（田植えの準備、周辺草刈り）、
午後：里山自然観察隊

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

コオニタビラコとハハコグサ

ビオトープ脇の休耕田で4月になって花を咲かせている春の七草2種をご紹介します。

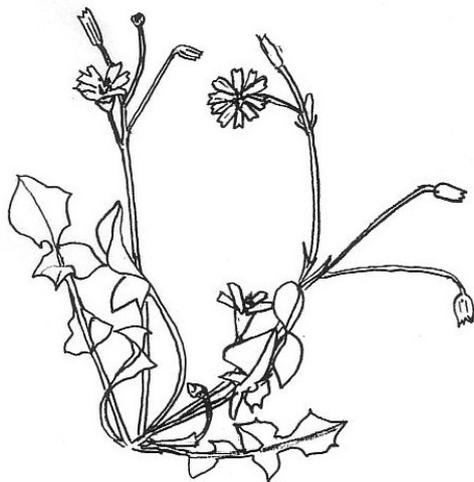
どちらも越年草といって、秋に芽生えてロゼットで越冬し、春に茎をもたげて花を咲かせます。春の七草とはいっても、正月にはまだロゼット状で見つけ難かったので、こんなところにあるとは知りませんでした。特にコオニタビラコ（春の七草のホトケノザ）は、あるところにはあるけれど、どこにでもある草ではないので、先日西原会員に教えてもらった時にはこんなところにあつたのかと大変うれしく思いました。コオニタビラコは、その名前が標準和名となっていますが、本来はタビラコ（田平子）と呼ぶべきです。田に葉を平たく広げるようすからその名前が来ています。タビラコが先にあつて、それに似た背の高い種をオニタビラコというのはわかりますが、小さいオニタビラコという意味で、コオニタビラコと元に戻るような名前のつけ方をするのは良くありません。すっきりタビラコと呼んでやりたいものです。

一方のオニタビラコは、道沿いや荒地に普通に見られる越年草で、栄養のよい場所では1m近くも花径を伸ばし、夏まで延々と花を咲かせ続けます。種子に冠毛があつて、タンポポやセイタカアワダチソウのように風散布するので、れっきとした日本産ながら北米にまで帰化しつつある強勢な草です。

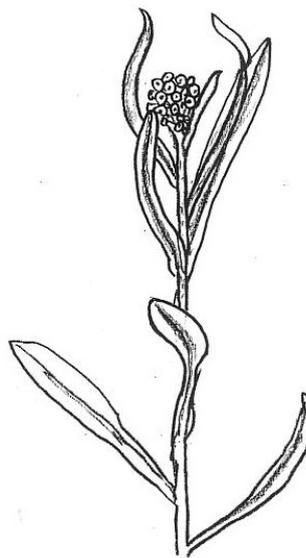
ホトケノザという名前のついた草としては、今ビオトープ内の草地で赤紫の花を咲かせているシソ科のホトケノザがあります。こちらは2枚の葉が「仏の座」をあらわし、コオニタビラコは冬に葉を四方に広げている姿が「仏の座」を思わせることからついた名前だということです。野草の名前ひとつでも、いろいろ交錯している場合があるので、頭の中をよく整理しておかないと混乱してしまいます。

そのコオニタビラコのかたわらに、春の七草のゴギョウ（御形）であるハハコグサも一緒に咲いていました。全体に綿毛をたくさん生やしているので白っぽく見え、春になると茎の先にたくさんの黄色の小花からで

きた頭花をつけます。草モチは昔、このハハコグサで作ったと言いますが、今は香りのよいヨモギがもっぱら使われています。七草粥の1種として食べる分には気にならないのですが、ハハコグサのみを単独で食べると毛がモソモソしておいしくないそうです。ビオトープ内にたくさん生えていたならば、それを確かめるために先日の野草のてんぷらの食材として一度試してみたかったところです。このハハコグサの仲間には、チチコグサやチチコグサモドキなどがあり、何とかチチコグサという名前のついた帰化植物も次々に日本に入って来ているようです。しかし、ハハコグサが何ととっても一番見た目にも愛らしく、きれいに見えます。あたかも美しい女性にまわり付く男が次々に増えていくような、どこかの世界を髣髴させるようなその名前の付け方、植物学者も考えたものですね。



コオニタビラコ (キク科)



ハハコグサ (キク科)

4. ビオトープ関連 (会員の声) (郷中 行夫 記)

関根会員に誘われて、ビオトープに参加するようになって早くも2年半が過ぎてしまいました。里山ビオトープの様子もわからないまま入会しましたが、会員の皆さんの人柄の良さもあり楽しく行事に参加し、様々なことを学ぶことができました。楽しくなった頃になって防府に転勤してしまい、あまり行事に参加できなくなり残念で賞がありません。

私自身は生物学をかじったことのある者ですが、実際の宇部周辺の動植物(特に植物)についての知識が乏しく、当初から動植物についての知識をビオトープの活動を通して得たいと考えておりました。しかし、ご存じのとおり活動の大半はビオトープの維持に費やされています。このような活動で汗を流すのも運度不足の私にとっては楽しいことですが、学習的な活動にまで及ばないのは少し残念なところ です。できれば今後このような活動に手を広げていただければと考えています。

ところで、私が最も気になっているのは若い会員が少ないことです。折角、ビオトープもある程度軌道にのってきたのですから、これから先のことを考え、大学生や高校生が参加できる催しものなどを考えて積極的にアピールし、会員の輪を広げていってはいかがでしょうか。

次回は (人選中) 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

一 春になって少しは来訪者が来ているでしょうか今回も記載がありません。きっかけを作って書いているのですがあまり目立たない場所にあるからでしょうか後が続きません。次を期待します。

6. 会よりの連絡事項

- (1) 総会も済み新しい年度の行事計画で活動を進めていきます。特に地域通貨の取り入れについては早速4月16日の活動で6枚の通貨を戴きましたが、まだ何に使うことか?いくら交換価値があるか?等決めていくことになっています。おおいに通貨をためて利用していきたいものです。それには活動の参加が一番です。
- (2) 会費の徴収にいちいち電話やメールをしなくてはなりません。年会費が必要であることは会員全員が分かっていると思いますが、まだの方は早期入金をお願いします

7. 編集後記

桜の季節が終わると、次々 景色は進展し続け、充分に楽しませて貰えます。恐ろしい天災も忘れ、若葉の其々 微妙に違いながら、キラキラと日差しに輝く様、色とりどりの花々の 風に揺れている様、毎年 此の頃になると、自然の素晴らしさに感動します。

先日は、第1回自然観察隊 山野草を採り、天ぷらにして食べるという 催しが行われました。もう、顔なじみに成った子供、初めての子供、皆 元気でハツラツとして いました。外で 行うと言う事で、多少の心配は 有ったのですが、油は背中で ガードして、次々揚げました。私も、カラスのえんどう、椿等、初めての物も有り、体の中まで 季節を感じました。地震 津波 大雪 大雨・・・、恐ろしい自然の顔も 有りますが、他面の優しい優しい、有難いこの様を、大切に 守り、楽しんで行きたいと、改めて思いました。

四日間 留守をしていたのですが、その間に 一本植えた水菜が、一メートル以上の背丈になり、真黄色の花が、花束の様に広がっていました。良い香りがして、蝶が飛んで来ます。もう、食べられませんが、畑の中の生ゴミが 変身しました。

持続可能な社会、これからも参加して 行きたいと、思います。

(大村 美智子 記)